

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2091500054		
法人名	社会福祉法人協立福祉会		
事業所名	高齢者グループホーム ふきぼこ		
所在地	塩尻市大字棧敷 538-1		
自己評価作成日	平成22年3月30日	評価結果市町村受理日	平成22年6月11日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2091500054&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成22年4月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接する塩尻協立病院と連携し、週一で訪問看護と月一回の往診(5月以降は月2回の予定)を受け医療面の安心と信頼を得ています。また病院の健康友の会グループホーム運営委員会はホームへの関わりを持ち、会員および地域住民と入所者のふれあいを深めています(ホームでの大正琴教室は月2回の定例開催もしています)。ホームの日本庭園は四季折々の情緒豊かな暮らしを楽しめます。職員は共に生活するパートナーとして一人ひとりを大切に居心地の良い居場所作りに努力しています。家族会や面会時などでの家族との絆も深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム周辺には田園風景が広がる中、旧家跡地に日本庭園を活用して理想的な居住空間が設置され入居者の安全確保と生活環境へ配慮された構造建築となっている。ホームは社会福祉法人 協立福祉会に属し、隣接する塩尻協立病院と連携を図り、医師や訪問看護師による健康管理体制により入居者、ご家族の安心と暮らしの安定が確保されている。なお健康友の会とグループホーム運営委員会による庭の手入れや野菜作り、行事時の支援を頂く中で地域住民との交流が得られている。管理者はグループホームでの経験を活かし個別ケアに重点を置くと共に、職員は共に暮らすパートナーとしての視点を持ってケアに配慮されている。入居者は大変明るく食事時には好物の食事を分けてあげるなど、共に労わり思いやりを持って過されている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()		項目	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	寄り添いとファンタジーのあるケアを目指し、居心地の良い居場所作りに努力しています。入所者、家族、地域住民とのふれあいを深め、安全・安心・信頼のホーム作りに努めています。	母体法人理念をホーム玄関に掲示して理念の共有を図られている。	グループホームが運営やケアサービスを提供する上で、拠りどころとなる大切なこと(住み慣れた地で入居者の共同生活をいかに利用者本位にし、一人ひとりの尊厳と自立を支えていけるか)、常に立ち戻る根本的な考え方が組み入れられたホーム独自の理念をつくりあげ、共有を図られるよう期待する。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	友の会でのホームを利用した行事(大正琴教室の定例化など)や日々の散歩でのふれあいを深めています。	健康友の会の方々によるホーム利用時や隣接法人病院への行事参加(夏祭り・健康祭り等)の折に地域の方々と交流を持たれている。なお日常の散歩の折には地域の方々と挨拶を交わされると共に近隣住民による菜園の植え付けや差し入れもあり、馴染みの関係ができてきたことを伺った。	今後更に地域の保育園や小中学校等の行事に積極的に参加したり、ホーム行事に招待をして地域との交流を深めていけるよう期待する。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ地域実践にはいたっていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は運営推進会議を開催できませんでした。次年度の重要課題です。	今年度は運営推進会議が開催できなかったことを伺った。	運営推進会議は、ホームが地域密着型サービスとしての役割を果たす為、外部の方々を通してホームの改善課題等を話し合う貴重な機会である。そのため定期的開催し、地域の理解と支援が得られるよう取組まれることを望む。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	塩尻市の介護相談員さんに定期的に訪問していただいている。	市の相談員による定期的な訪問を受けられていることを伺った。	運営推進会議に市の担当職員に参加して頂きホームの考え方や実態を共有し、課題解決に向け協働関係を継続していかれるよう期待する。

外部評価結果(高齢者グループホームふきぼこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	非常口も含め施設は開放的にしている。職員も身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	訪問時、非常口を含め玄関等への施錠はされていない。なお職員の認識の中で身体拘束をしないケアに努められており、サービス提供のなかで身体拘束は見られなかった。	今後更に予測されるリスクについてご家族等と話し合うと共に、ホームによる工夫や取り組み、方針を示し、抑圧感のない暮らしの支援が図られることを期待する。なお職員全員で身体拘束マニュアルに沿った研修を持たれることが望まれる。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	部会や研修報告などで虐待防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同上		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	同上		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時での話し合いを重視して家族の意見要望を反映させている。	年2回開催される家族会やご家族訪問時に入居者の様子を伝えると共に、入居者、ご家族より思いや要望を伺い、職員会議で話し合い反映されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部会や日常のコミュニケーションを大切にしている。	年3回協立福祉会より面接用紙が配布され職員の意見を聞く機会が持たれ、運営に反映されている。	

外部評価結果(高齢者グループホームふきぼこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	整備され運用されている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	部会や日常のコミュニケーションを大切に、内部研修制度に参加している。外部研修報告もしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協立福祉会3GHの主任会の定例化はあるが、外の事業所との交流はまだされていない。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者との関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者および家族との関係づくりに努めている。		

外部評価結果(高齢者グループホームふきぼこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にするパートナーとして接している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換に努め、関係作りを目指している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人たちとの面会が多く、外出や外泊もしていただいている。	馴染みの方々(知人、友の会、理容師等)による訪問やご家族と馴染みの場所での会食等継続的な交流ができるよう支援されている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの生活(食事やレクリエーションなど)を重視している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めて努力している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	無理強いをしないケアに努めている。	入居者の希望(散歩、入浴、誕生会のおりの食事メニュー等)に沿ったサービス提供に努められている。なお入居者の希望により、ご家族との外出や外泊支援も行われている。	

外部評価結果(高齢者グループホームふきぼこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カルテや日報から皆で共有化している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者担当制でケアプランを立て、全員で共有化する。	入居者の担当制により日常の会話の中から思いや希望を把握すると共にご家族の意向を伺い職員全員で話し合い現状に即した介護計画が作成されている。3ヶ月毎の見直しと、状態変化に伴った見直しも行われている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々実践している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院通院など臨機応変に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	友の会の畑の手伝いや病院の夏祭りおよび健康祭りに参加している。		

外部評価結果(高齢者グループホームふきぼこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協立病院の定期的な往診および必要に応じて受診を受けている。	入居者、ご家族の同意を得て隣接の同法人病院に受診支援(現在月1回の往診による受診)が行われている。今後月2回の往診が行われることを伺った。なお訪問看護師による週1回の健康チェックが行われると共に、緊急時には24時間連携体制による医療活用が可能となっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護および看護職との共同で適切に行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と連携し実践している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期について、ホームとしての姿勢が伝えられている。年を重ね入居者の身体機能の低下が見られる中、入居者やご家族の希望を受けて、ホームが対応し得る最大の支援に向け努力される旨を伺った。	職員の不安は入居者の不安に影響を与える恐れがある。職員教育や医療連携など、体制の整備とホームの力量を把握したうえで、ホームが対応し得る最大の支援方法を踏まえてチームで具体的に話し合われることを望む。その上で、看取りの指針を作成していただきたい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	十分ではないが行われている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	桝敷地区消防避難訓練に参加した。	入居者を交え避難訓練が実施されている。その結果改善点が得られ、職員間で話し合わせ周知されている。手薄になる(夜間1人の宿直)夜間想定訓練は行われていない。	入居者の高齢化に伴い身体機能低下や重度化が進む中、安全に避難して頂く為には運営推進会議等で検討され、地域住民による協力体制を築かれることが大切である。また災害時のための備蓄(備品・水・食料確保など)の準備を望む。

外部評価結果(高齢者グループホームふきぼこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応に努力している。	サービス提供時職員は入居者一人ひとりの人格を尊重した声掛けとさり気ないケアに努められている。なお入居者の個人情報につながる記録類の保管管理にも配慮されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけに努力している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援に努力している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に全員でごっくん体操を実施し、楽しめる食事に努力している。	野菜などは職員と一緒に買い物に出かけて購入したり、ホーム菜園で収穫したりと、旬の食材を採り入れる取り組みがされている。職員は入居者の力を活かした支援を心がけながら、準備から後片付けが行われていた。職員と入居者は同じテーブルを囲み会話を楽しみながら食されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。		

外部評価結果(高齢者グループホームふきぼこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	特に夕食後は全員が行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援している。	入居経過の中で、入居者一人ひとりの排泄パターンや行動より察知して個別支援が行われている。オムツ交換は居室で行うなど羞恥心や不安を軽減する配慮がなされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動レクに取り組むと共に食事内容にも努力している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は午前中で隔日に入浴支援をしている。	給湯器が深夜温水器使用になっており追い炊きができないため、基本的には隔日の午前中入浴となっている。入居者の気持ちを大切に支援に配慮されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	こまめな室温調整、電気毛布の温度調整などに気をつけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや誤薬防止に努力している。		

外部評価結果(高齢者グループホームふきぼこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を楽しみながら、希望に沿った支援をしている。	ホーム周辺への日常的な散歩(車椅子対応の方もあり数回に分けて支援されている)や買い物(食材購入や病院内の売店利用等)に出かけられている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは事務所管理ですが、希望に応じて買い物をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよいように工夫している。	玄関には入居者が生けられた花やサンルームには満開に咲きほこった大きな桜の枝が飾られ(散歩時春の大雪で折れた枝を労わりの心より持ち帰られたことを伺った)居ながらにして季節感が得られる工夫がされている。桜の花を見ながら昔を偲ばれていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫をしている。		

外部評価結果(高齢者グループホームふきぼこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族の希望にそっている。	入居者一人ひとりが使い慣れた物品や思い出の品(机、ベット、テレビ、家族写真、親族の位牌、人形、自己作品等)が沢山持ち込まれ、それぞれ居心地良く過せる居室づくりをされている。日中も居心地の良い居室で過される方が多いことを伺った。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	努力している。		